

第 1 回 阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会

上流遊水地群の地内利活用検討の進め方について

目 次	
1. 地内利活用検討の進め方	1
2. 地内利活用の基本条件等	3
3. 遊水地の利活用	5
4. 阿武隈川上流遊水地群周辺の施設	6

令和 6 年 1 月 3 0 日

東北地方整備局 福島河川国道事務所

福島県

鏡石町・矢吹町・玉川村

1.地内利活用検討の進め方

(1)検討の枠組み

○令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えて整備される「阿武隈川上流遊水地群」における、地域振興に資する持続可能な地内利活用の方向性等について検討し、地内利活用方針をとりまとめるために、利活用検討会等の組織を立ち上げる。

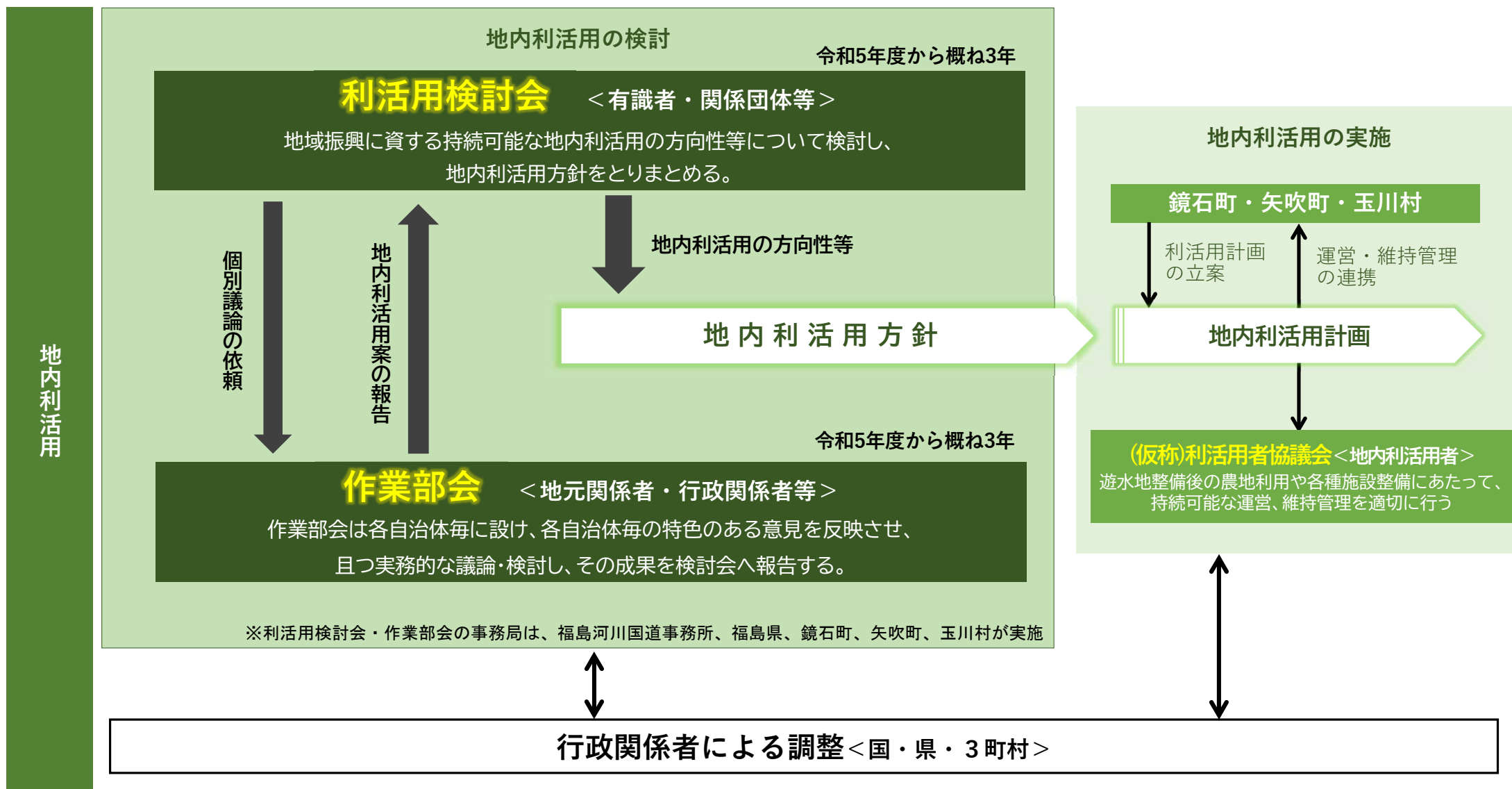


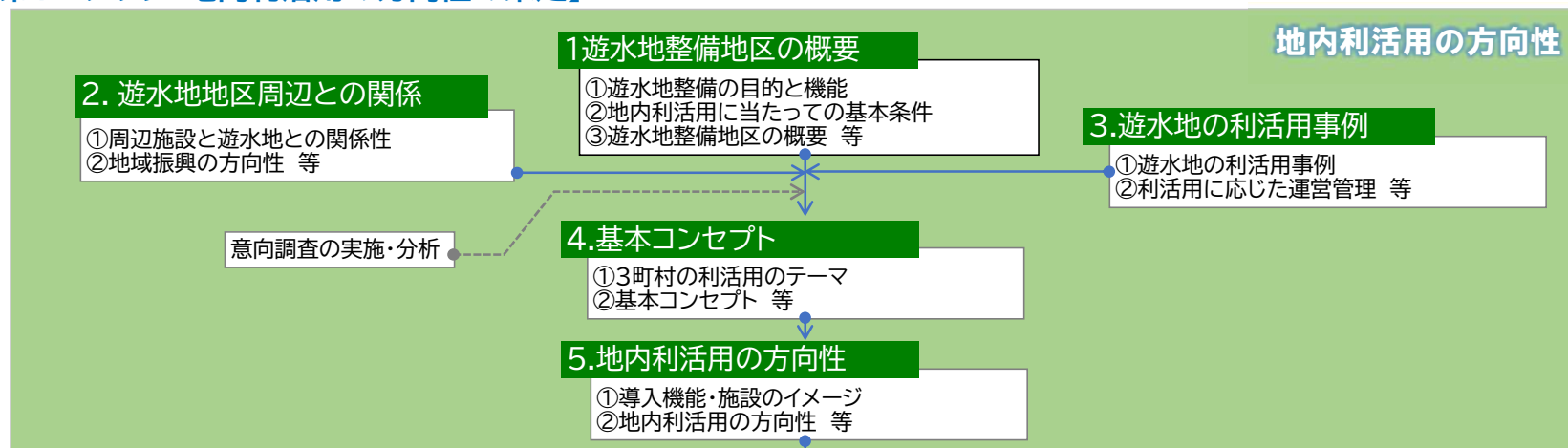
図 1. 検討組織体制イメージ

1.地内利活用検討の進め方

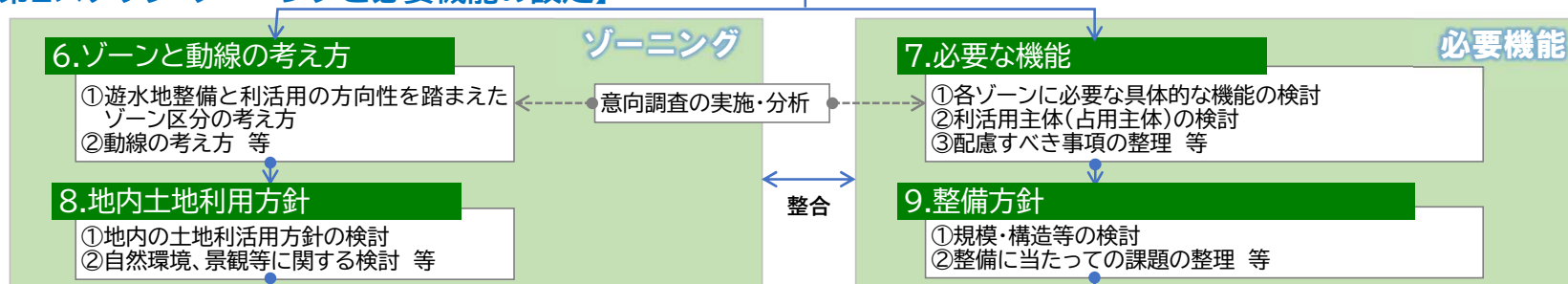
(2) 上流遊水地群地内利活用の検討ステップと検討内容

○利活用については、地元意向や民間企業意向等をふまえ、各自治体の都市計画等との整合性や地内利活用の実現性・持続性・地域振興の効果等の観点から検討する。

【第1ステップ:地内利活用の方向性の策定】



【第2ステップ:ゾーニングと必要機能の設定】



【第3ステップ:事業スキームの検討と地内利活用方針の策定】

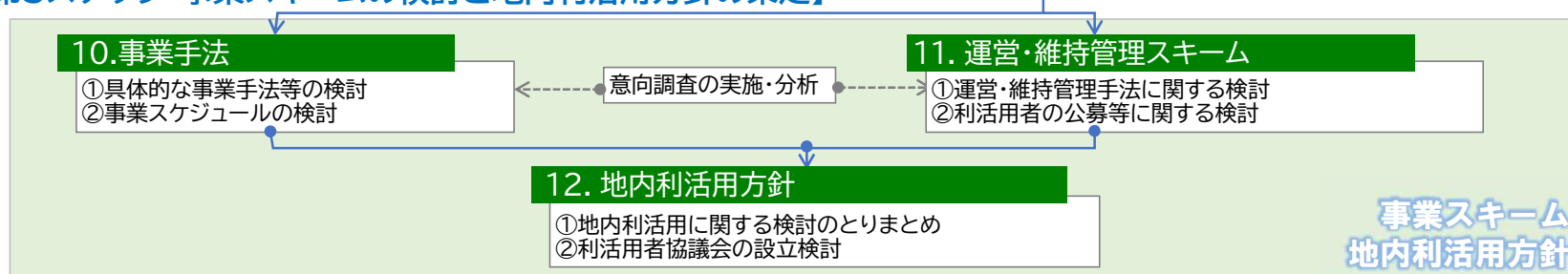


図 2. 全体検討フロー

2.地内利活用の基本条件等

(1) 遊水地の地内利活用にあたっての条件

◆遊水地の治水機能を損なわず、維持管理の障害とならないこと

- 河川構造物（堤防、樋管等構造物、管理用道路）等の支障とならないこと
- 遊水地の機能（貯水容量や排水など）の妨げとならないこと
- その他、河川法に準拠し河川占用許可を受けることの出来る物件・構造であること

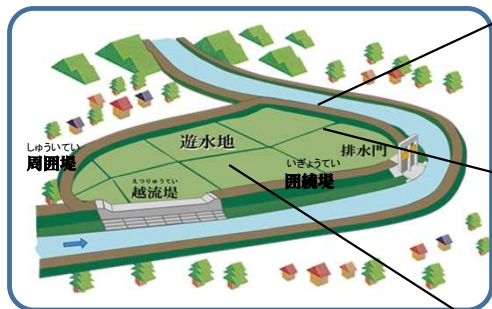
◆高圧線（泉郷線）の建築制限や、福島空港の上空規制を順守すること

- 建築物等を整備する際は送電線からの離隔距離をとること
- 福島空港の上空規制エリアにおいては、航空法に基づく飛行制限を守ること 等

《治水機能に係る構造物等制限》

遊水地は、洪水時に河川から越流堤を超えた水をためる治水機能を有するため、構造物などを整備する場合は、遊水地の治水機能を損なわず、維持管理の障害とならないようにする必要がある。

【平常時のイメージ】



堤防などの河川構造物に支障しない建物構造とする

貯水容量や排水の妨げとならない植樹、建物構造とする

【洪水時のイメージ】



河川占用許可を受けることのできる物件・構造とする

概ね10年に1回湛水する

《福島空港に係る上空規制》

航空機が安全に運航できるよう、空港およびその周辺では障害物を制限する制限表面を定める。制限表面に接近する場合、航空障害灯の設置義務が生じる。

《高圧線に係る建築物等制限》

送電線の電圧に応じて建築物等の離隔距離が定められている。

表 1. 電圧に対する離隔距離

電圧	送電線からの離隔距離	クレーンによる作業を伴う場合の推奨離隔距離
15.4kV	4.8m	5.0m

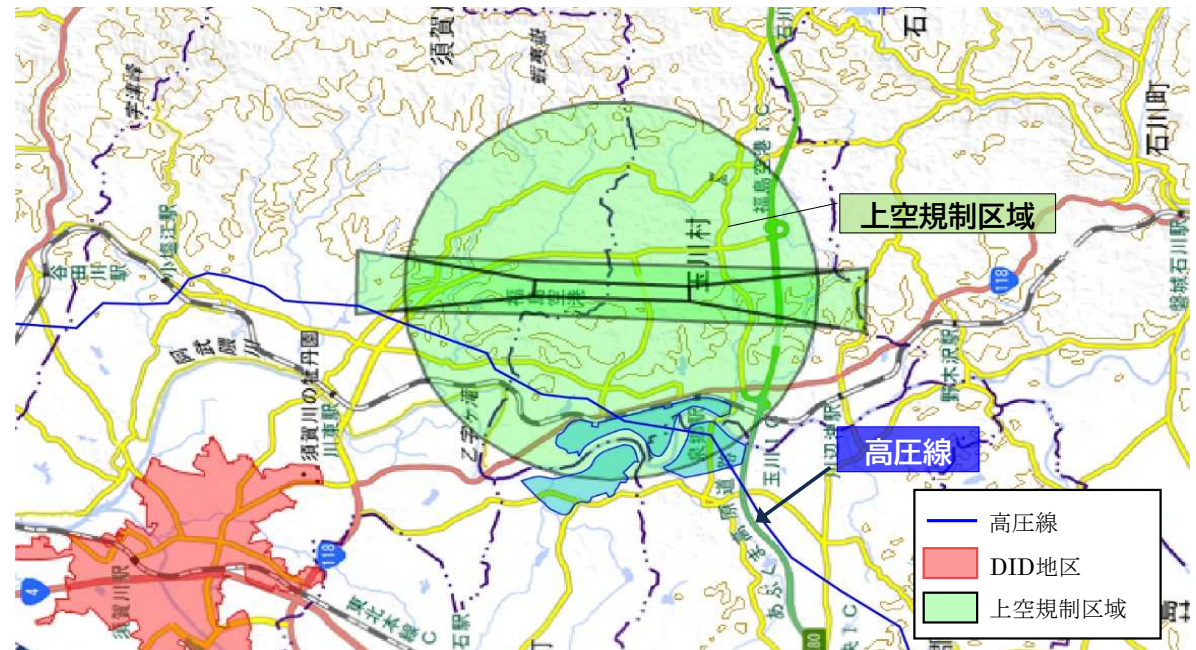


図 3. 遊水地の治水機能に係る構造物などの制限

図 4. 福島空港周辺の飛行制限領域

2.地内利活用の基本条件等

(2) 施設の占用・維持管理主体

- 遊水地の基盤となる河川管理施設（周囲堤・囲繞堤・越流堤・流入排水樋門・管理用道路 等）は国土交通省が維持管理。
- 遊水地内を利活用する場合は、占用主体となる自治体や民間事業者等が河川法による許可に基づき占用・維持管理。

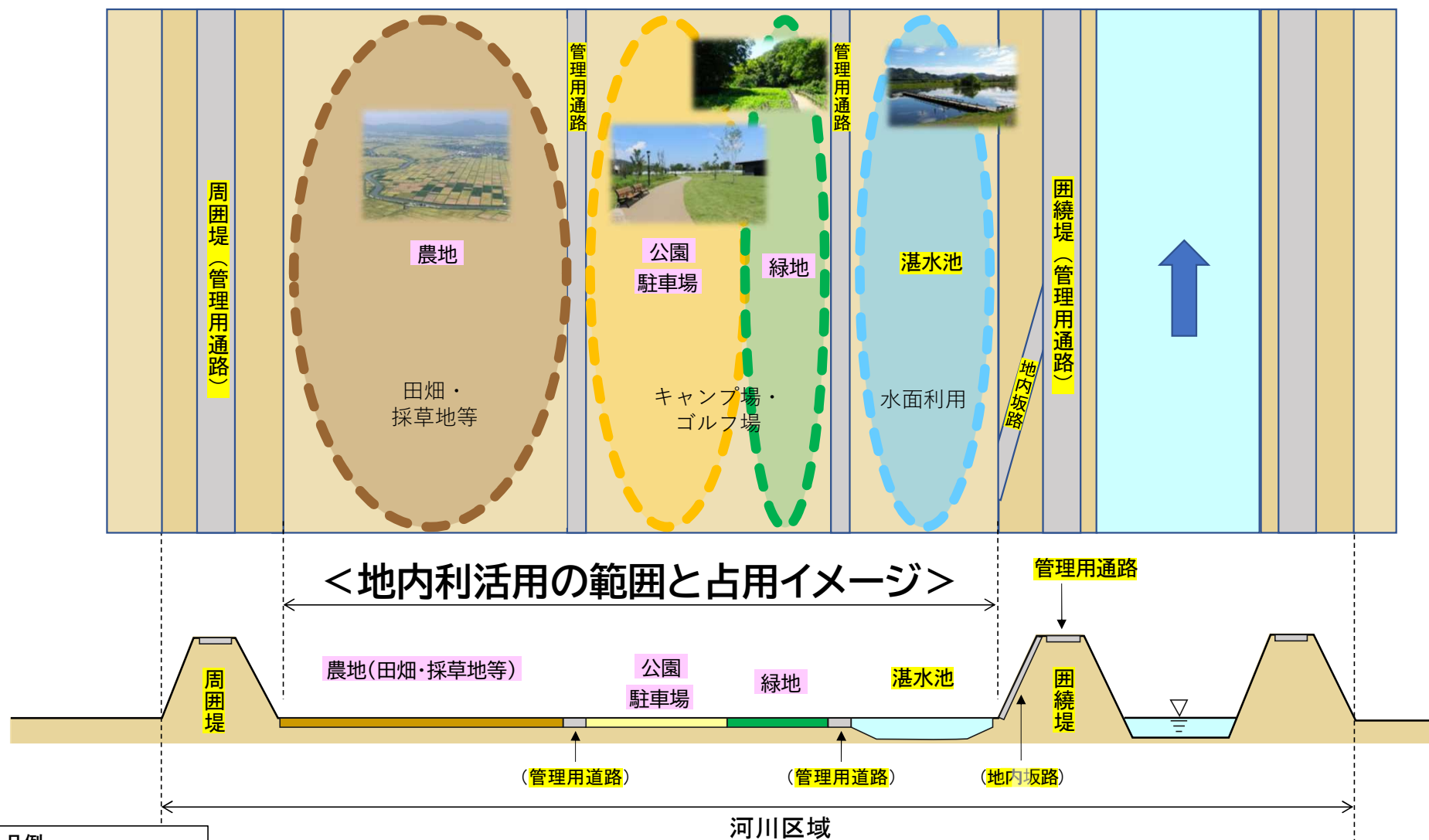


図 5. 遊水地内における占用イメージ

3.遊水地の利活用

(3) 河川空間の利活用事例

○国土交通省では、豊かな自然などの観光資源や、都市部の貴重なオープンスペースとしての価値を有する河川敷地において、治水上、利水上又は河川環境上の支障が生じないように配慮しつつ、快適でにぎわいのある水辺空間の創出を推進しており、様々な利活用事例がある。



出典：かわまちづくり計画策定の手引き（国土交通省水管理・国土保全局）

図 6. かわまちづくり検討イメージ



図 7. かわまち大賞
宮城県名取市閑上地区

出典：国土交通省HP



図 8. 緑地等の公園
青森県青森市・横内川遊水地

出典：特定非営利活動法人
パークメンテ青い森グループHP

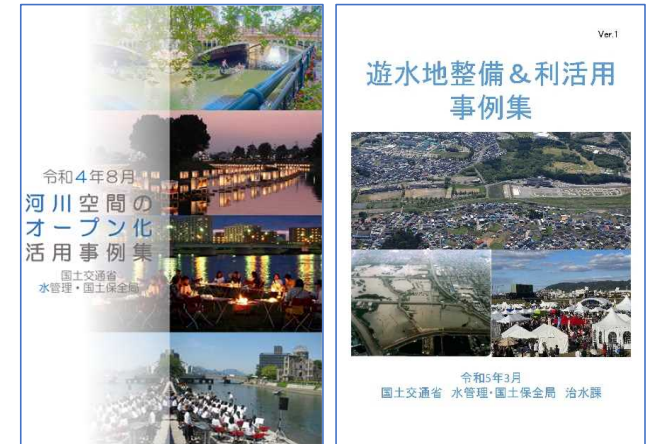


図 9. 利活用参考事例集

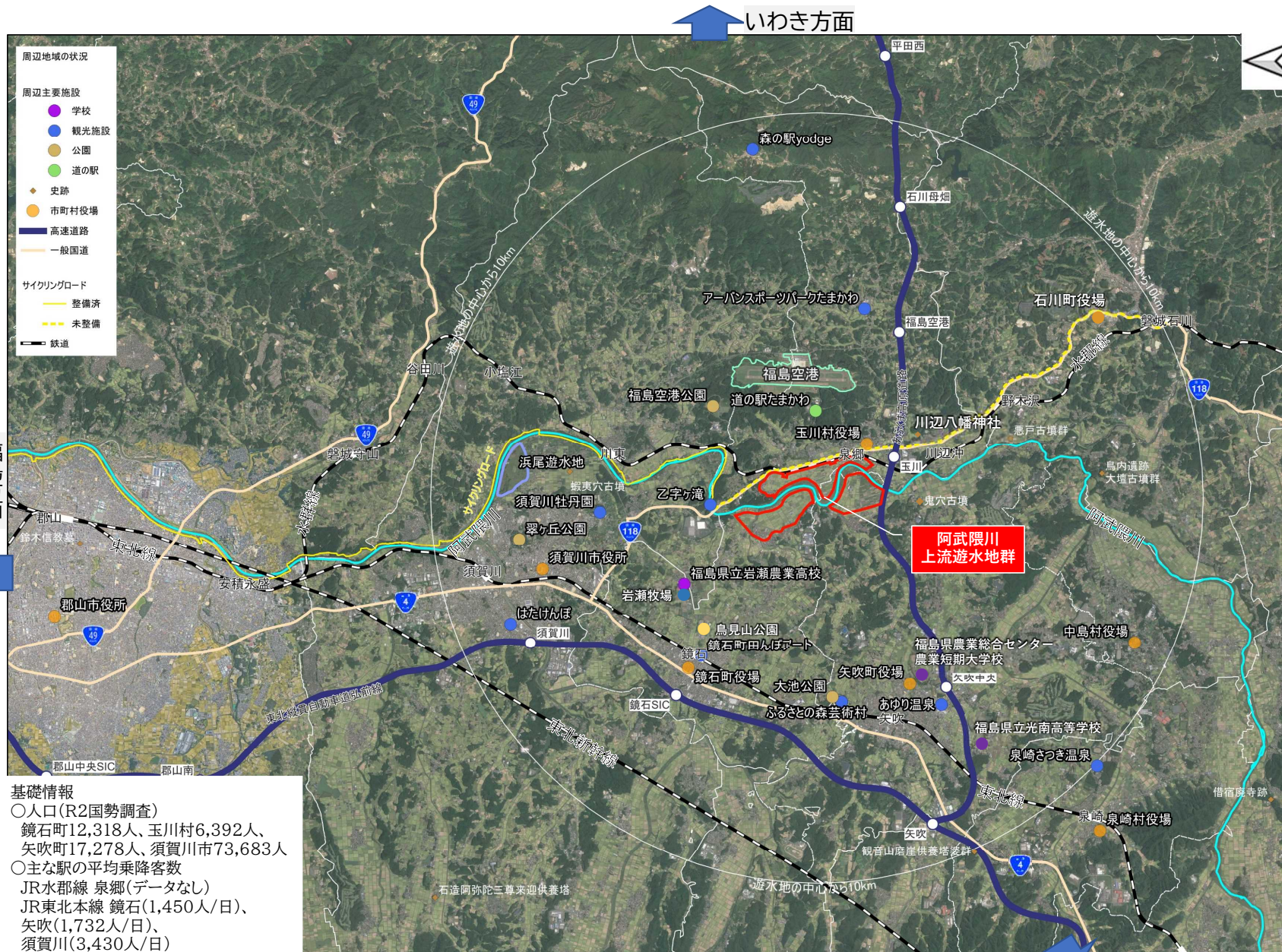


図 9. 遊水地利活用の事例

画像出典：国土交通省水管理・国土保全局治水課 遊水地整備&利活用事例集
一般社団法人全日本BMX連盟 HP より

4.阿武隈川上流遊水地群周辺の施設

◆阿武隈川上流遊水地群の周辺には、空港や高速道路等の交通施設、歴史・文化に富んだ観光地が点在しているため、交通利便性に優れ、都市的需要や観光需要などが見込まれるエリアである。



←サイクリングロード
県が整備する大規模自転車道。福島県の豊かな自然を満喫できる。

乙字ヶ滝→
日本の滝100選に選ばれた名滝。素晴らしい景色をもとにかわまちづくりに取り組む。



←須賀川牡丹園
国指定名勝。R3年間利用者数は29,326人。

川辺八幡神社本殿→
県重要文化財として修復工事を実施。石川氏の氏神として広く信仰を集め崇められてきた由緒ある古社。



←福島空港(H5開港)
平成11年に年間75万人以上いた利用者は、日本航空の撤退、東日本大震災の発生により令和元年に約16万人に減少。

道の駅たまかわ→
玉川村の新鮮な野菜や果物、さるしなやトマトの加工品などの特産物が購入できる。R3年間利用者数175,885人



画像出典:写真素材 フォトライブラリー、全国かわまちづくりMAP より

図11 阿武隈川上流遊水地群の周辺における交通・観光地等の状況

白河方面